

厚労省「第10回 チーム医療推進方策検討ワーキンググループ」 チーム医療実証事業の報告書を提出

2012/8/8

8月8日に開催された「チーム医療推進方策検討ワーキンググループ(WG)」(座長:山口徹・虎の門病院院長)では、チーム医療実証事業の報告書が提出された。



チーム医療実証事業は、同WGが作成したチーム医療の取り組み指針(「チーム医療推進のための基本的な考え方と実践的事例集」)を基に、具体的な取り組み事例の安全性・効果等を現場で検証するもの。2011年度に実施され、68施設115チームが参加した。

会合では、事務局が同事業の115チームからの報告をまとめた報告書案を提出。委員からは、評価の視点・指標についての意見が相次いだ。

議論の口火を切った近森正幸委員(近森病院院長)は、各施設・チームによって報告内容の基準が定まっていないことを指摘。チーム医療を評価するための視点として、①多職種が個々のコア業務に専念できているか、②業務の標準化ができているか、③各職種が患者さんを診ているか——の3点を挙げた。

これについて栗原正紀委員(長崎リハビリテーション病院理事長)は、「現状では、様々な施設におけるチーム医療を、明確な形で評価することは難しい。報告書においては、あくまで『まとめ』という形でそういった視点を付記してはどうか」と発言した。遠藤康弘委員(埼玉県済生会栗橋病院院長)も同意を示し、「将来的には近森委員の見解の方向性で良いと思うが、今はまだそこへ向かう過程。各施設・チームのやり方が違うのは仕方ない面もあり、また、評価方法が統一されていなくても、事例として収集することだけでも一定の意義がある」との見解を述べた。

また、土屋文人委員(国際医療福祉大学薬学部特任教授)は、チーム医療実証事業の後継となるチーム医療普及推進事業(下記参照)で、「評価の視点・指標について整理してはどうか」と提案した。

議論を受け、事務局は、報告書に盛り込めるところは盛り込んだ上で、今後の議論に向け論点を整理するとした。

議論を受け、事務局は、報告書に盛り込めるところは盛り込んだ上で、今後の議論に向け論点を整理するとした。

■チーム医療普及推進事業の委託予定施設を報告

事務局は、2012年度に実施するチーム医療普及推進事業の委託予定施設についても報告。同事業では、チーム医療実証事業に参加した施設がワークショップを開催し、取り組みの普及を図ることが主眼となっている。委託施設は、チーム医療実証事業の68施設のうち、応募のあった31施設となる見込み。